

別府市教育ICT活用推進計画 — 令和5年度 学校における取組 —

【別府市教育委員会基本理念】

- ・自分らしくしなやかに生きる自立した人
- ・互いを尊重し、「ふるさと別府」を愛する人

【別府市学校教育指導方針】より

「学び、育つこと」を重視した教育へ
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【別府市教育ICT活用推進計画】

- ・令和の時代のICTを活用した学び
- ・教職員研修の充実
- ・ICT環境の整備

【ICT活用の目標】

- ・児童生徒の情報活用能力の向上
- ・ICTを活用した授業改善
- ・ICTを活用した児童生徒と向き合う時間の生み出し

【めざすICT活用の姿】

(1) 児童生徒の情報活用能力の向上

- ICTを活用した個別最適な学び (AI型ドリル教材の活用等)
- ICTを活用した情報の収集とその分析
- 児童生徒のICT技能の向上
- 1人1台端末の文具としての使用

(2) ICTを活用した授業改善

- ICTを活用した協働的な学びの創造
- ICTを活用した言語活動の充実
- ICTを活用した適切な評価と支援

(3) 児童生徒と向き合う時間の創出

- 校務支援システムの活用による事務の簡素化
- テクニカルスタッフの積極的な活用
- テストやドリルのICT活用
- 保護者との連絡のICT活用

【取組】

■ ICTの授業での活用促進

【目的】 ICTを活用した授業を促進するとともに、実践例を収集し広報することで、個々の教職員の授業改善を図る。

- ICTの活用場面及び活用方法の例示とその浸透
- 授業への導入や発展のためのテクニカルスタッフの積極的活用
- ICTの活用事例の収集とその広報
- 基礎・基本の定着のためのAI型ドリル教材の活用
- 1人1台端末の文具化の促進

■ 教職員研修の充実

【目的】 ICTの効果的な活用に向けて、組織的に個々の教職員のスキルアップを図る。

- 情報教育主任に対する校内研修推進のためのリーダー研修
- ICTを活用した授業の日常化に向けた年3回以上の校内研修
- 校内研修や各教科部会での授業におけるICT活用の推進
- デジタルシティズンシップ教育に向けた研修と授業の実施
- 希望者や希望する学校に対する学習支援アプリの研修

■ 家庭や地域社会との連携

【目的】 各家庭での活用を促進したり、地域社会との連携を図ったりすることで、ICTの活用と日常化を推進する。

- 家庭学習としての活用や1人1台端末持ち帰りの日常化
- 不登校児童生徒の学習環境の確保
- プログラミング学習や遠隔授業等への地域人材の活用
- 多様な立場からの多様な意見を聞くための場の設定

■ ICT環境の整備

【目的】 校務支援システムやLINE連絡網等を通じた教職員事務の軽減を図り、児童生徒と向き合うための時間を生み出す。

- 校務支援システムの有効活用による、教職員事務負担の軽減
- LINE連絡網や1人1台端末活用等による保護者連絡の簡素化
- ICTを使った職員間の連絡等による会議の削減
- 情報化推進リーダーと情報教育主任及び各校Teams連絡員の仕事分担整理
- その他、ワンスプレイスサポート等の相談体制やICT環境整備の増進

「授業での活用」と「研修」について

【1人1台端末の活用によって期待される効果】

- 全体やグループで発言できにくい児童生徒が自分の考えを表明できる。
 - 児童生徒の発言や作品を残しておいて、評価の際に利用できる。
 - 思いついたことや見つけたものを画像や動画で残すことができる。
 - 資料や画像の一斉配付がすぐにでき、資料としてそのまま活用できる。
 - 書き直しをしながら、素早くより良い資料を作成することができる。
 - 遠隔地の人をゲストティーチャーとして招いたり、交流したりすることができる。また、教室にいない児童生徒に授業の様子を見せることができる。
 - 知りたいことをすぐに調べることができたり、調べた資料をすぐに提示して活用したり、共有したりすることができる。
 - 児童生徒の発言を並べて、分類したり比較したりすることが容易にできる。
 - 振り返りの時間の節約ができ、蓄積しておくことができる。
 - ドリルやテストの作成や採点の手間を省くことができる。
 - AI型ドリル教材の活用により、個々の基礎・基本の力の把握ができる。
 - 作成した資料や動画を元に容易に発表することができる。
- etc.

【授業へのICT活用のステップ】 ※個々の教職員の活用度に応じたステージで活用を図り、上のステージを目指す。

ステージ1 「やってみる」

- 校内研授業や個人研修等の公開授業でICTを活用した授業を行うとともに、年度内には、1日1回を目途に1人1台端末を活用した授業を行う。
- 通常の授業の導入できる場面から 導入してみる。
- 授業への導入に際しては、テクニカルスタッフを要請して補助してもらう。
- 校内研修等で活用した授業等の交流を行う。

ステージ2 「広げる」

- 1日1回以上、1人1台端末を活用した授業を行う。
- 1時間の授業の中で導入できる場を増やしていく。
- テクニカルスタッフには、効果的な活用の方法を支援してもらう。
- 校内研修等で、より効果的な活用の仕方を探る。

ステージ3 「活用する」

1人1台端末を活用した授業を日常化する

- 1時間の授業の中で効果的にICTを活用できる場面を創造する。
- テクニカルスタッフとより効果的な活用の方法を探る。
- 校内研修等ではICTを活用した実践を交流するとともに、より効果的な活用法を探る。

デジタル・シティズンシップ教育の推進

【ICTの授業への活用に向けた研修】

- 1人1台端末を活用した授業の普及に向けた、情報教育主任に対する**リーダー研修**を行う。(情報教育主任)
- 情報教育主任を中心として、**年3回以上の校内研修**を行う。(授業への活用の仕方、デジタル・シティズンシップ教育のあり方、授業での活用実績の交流、1人1台端末を活用した授業の研究授業等)必要に応じてテクニカルスタッフを招聘する。
 - 研究主任を中心として、**各学校の校内研修の授業**に1人1台端末を活用した授業を組み入れる。(校長会、研究主任会)
 - **各教科部会における研究授業**において1人1台端末を活用した授業を組み入れる。(教科部会)
 - **学習支援アプリの活用についての研修**を、希望者または学校の必要に応じてテクニカルスタッフ等を活用して行う。

1人1台端末を活用した授業を通して、自立した学習者の育成をめざす